

破碎飼料用米を含む発酵TMR給与が肥育牛の発育、飼料利用性ならびに産肉性に及ぼす影響の実証

【分野】畜産の生産性向上、省力化等を可能とする生産技術体系

【分類】個別型研究

【代表機関】（国）鹿児島大学

【参画研究機関】（研）農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター、
農業生産法人(有)錦江ファーム

【研究・実証地区】鹿児島県南さつま市

1 研究の背景・課題

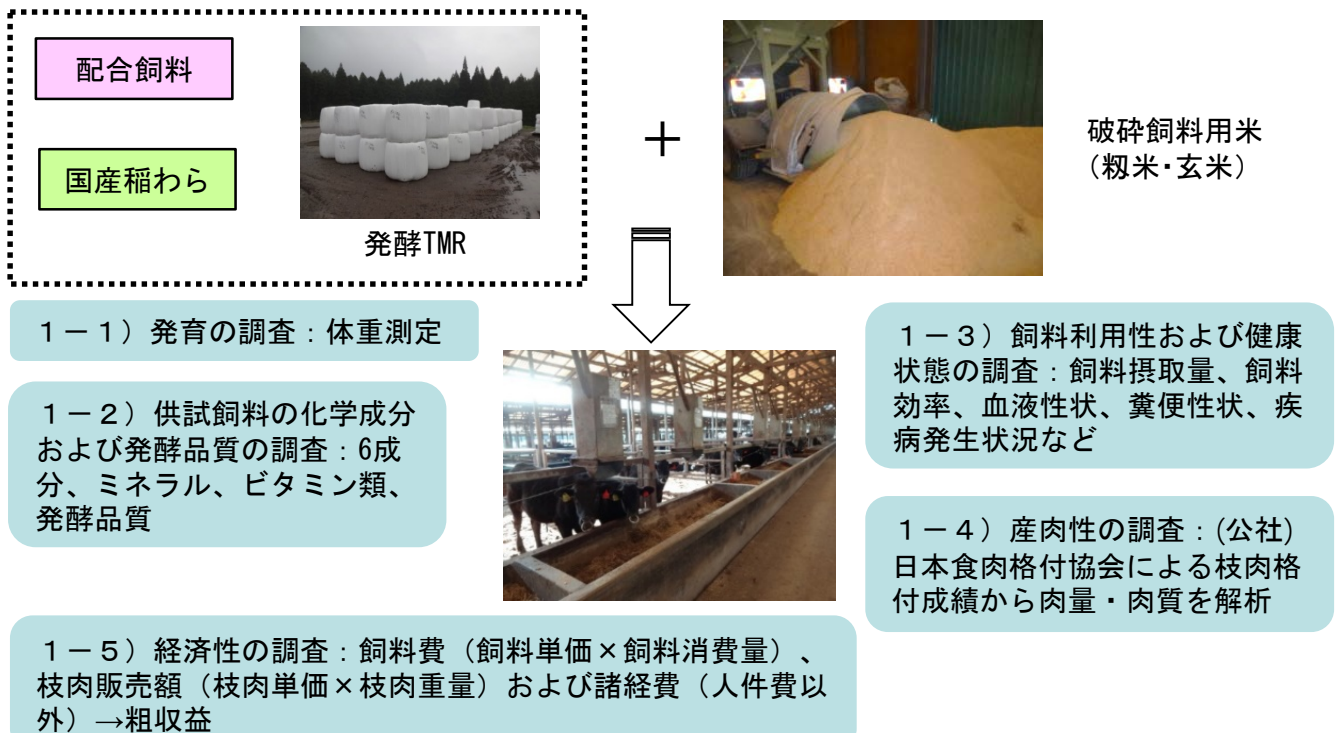
わが国では、自給飼料の生産拡大を図ろうとしており、その対策の一環で飼料用米への取り組みを強化し、当面の目標として5年後には飼料用米生産100万トン掲げている。家畜への給与事例として肥育牛への部分的・短期的利用が試みられているものの、長期給与による検討はなされていない。飼料用米の利用拡大を図るためには、肥育牛への長期給与の効果の検証が重要課題である。

2 研究の目標

- 破碎飼料用米給与による肥育技術の確立
発育目標値：10～15ヵ月齢1.0kg/日、16～19ヵ月齢0.8kg/日、20～23ヵ月齢0.6kg/日、24～28ヵ月齢0.4kg/日（「黒毛和種去勢肥育牛正常発育曲線（平均）」（社）全国和牛登録協会（2004）より）
破碎飼料用米を全肥育期間給与する可能性の検証
- 破碎飼料用米給与した肥育牛の肉質および食味性の解明
- 飼料用米給与マニュアルの作成

3 研究計画の概要

1 破碎飼料用米給与による肥育技術の確立（肥育実証試験）



2 破碎飼料用米給与した肥育牛の肉質および食味性の解明

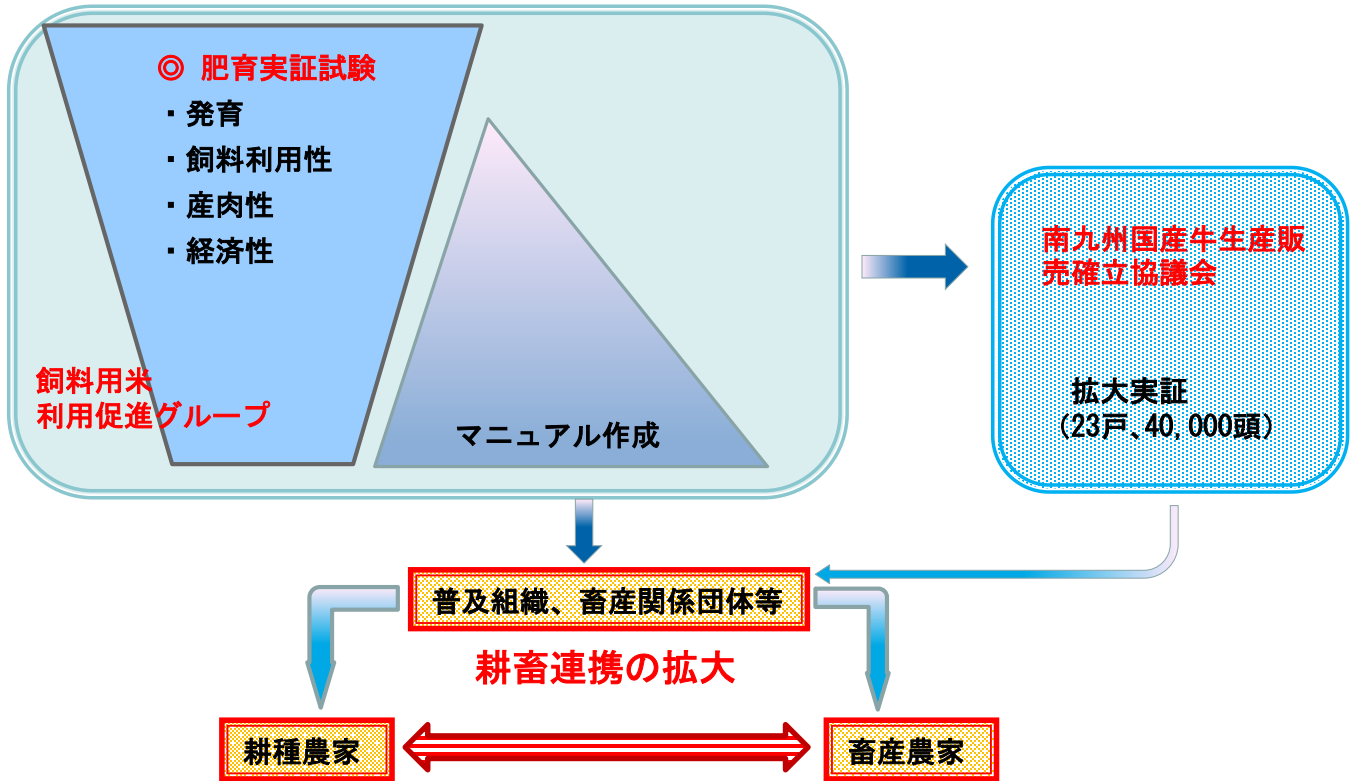
1-1) 肉質の調査：一般成分、脂肪酸組成、呈味成分、ビタミン類など

1-2) 牛肉の官能特性の調査：選抜パネルによる官能評価

3 飼料用米給与マニュアルの作成

肥育実証試験で得られる成果を基にしてマニュアル作成

4 肥育技術の普及支援



タイムスケジュール

	H26年									H27年		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
対照区(6頭) 9ヵ月齢	飼料摂取量・健康状態調査											
試験区(6頭) 9ヵ月齢	飼料摂取量・健康状態調査											
(参考試験区) 21ヵ月齢	食味テスト											
	H27年									H28年		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
対照区(6頭) 21ヵ月齢	飼料摂取量・健康状態調査											
試験区(6頭) 21ヵ月齢	飼料摂取量・健康状態調査											
(参考試験区) 21ヵ月齢	食味テスト											